

事業協賛趣意書

国立妙高青少年自然の家の事業運営に対する支援のお願い

国立妙高青少年自然の家は、平成3年に開所し、地元や関係団体など多くの皆様に支えられ、今年度、お陰様をもちまして、開所25年目をここに迎えることができました。

これまで毎年、約13万人の皆様より、多様な体験活動を目的としてご利用いただき、昨年度末現在で延べ利用者数は274万人に達しました。

本年度は「来て、見て、感じて まるごと体験 いいね妙高！」をキャッチフレーズに掲げ、職員が一丸となり青少年の健全な育成のための多様な事業を展開しております。

今後、地域の中核的な役割を担う事を念頭に、国立青少年教育施設が果たすべきナショナルセンターとしての役割の明確化、新たな課題に対応した体験活動のプログラム開発とその普及啓発、国立施設の管理運営に当たり多様なニーズに応え、より効果的・効率的運営を行うための企業や NPO 法人・行政・大学等と協働する「新しい公共」型管理運営の導入など、今まで以上に幅広い対応力を持った施設運営が求められています。

より多く子どもたちが、妙高の大自然の中で、日常の生活では得難い体験を積み重ねた結果、豊かな人間性・協調性を身に付け、それが将来を担う子どもたち一人一人の「生きる力」を育むものと期待し、その活動を今後も積極的に支援していきたいと考えます。

つきましては、当自然の家の取組にご賛同いただき、青少年の夢や希望を育む活動をご支援いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

平成29年1月

各 位

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立妙高青少年自然の家 所長

伊 野 亘